

自ら学ぶ生徒  
正しく行動する生徒  
健康でたくましい生徒



令和2年2月6日(木)発行

【発行責任者】郡山市立富田中学校長 熊坂 洋

# 手をたずさえて

## “思い”を“かたち”に… 卒業式の意味を心に刻んで!

2月を迎え、3年生は卒業までのカウントダウンが現実味を増してきた感じがします。3月13日(金)の第34回卒業証書授与式まで、授業日は今日からちょうど25日となりました。卒業式は、学校の教育活動の中で“最大の学校行事”です。この学び舎を巣立つ3年生の思いと在校生の思いが交錯し、大きな感動を生み出す行事です。その卒業式に向けて、生徒のみんなには、次の問いに対する自分の答えを考えてほしいと思います。

- ① 中学校の卒業式にはどんな意味があるのだろうか?
- ② 卒業式に自分のどんな思いや気持ちを込めたいか?
- ③ 卒業式に込める思いや気持ちを表すためにはどうすればよいか?

3年生には卒業する“主役”としての立場から、1・2年生には送る立場から、これらの問いに対する明確な考えをもって、これからの練習、そして本番に臨んでほしいと思います。式をかたちづくる重要な要素として、「服装・身だしなみ」、「姿勢(着座姿勢・起立姿勢)」、「動き(入退場、起立・着席)」、「礼」、「返事」、そして「歌(国歌、式歌、校歌)」があります。これらの中で、自分の“思い”をどのように“かたち”にしていくのか。これらを真っ直ぐに受け止め行動に移すことができれば、きっと感動的なすばらしい式になると確信します。



昼休みの式歌練習(2年女子)

## 式歌が変わります! 卒業生は『花笑』、在校生は『花束』

昼休みの式歌練習が2月3日からスタートしました。今回、式歌が変わりました。卒業生は新たに『花笑』(作詩/弥勒、作曲/瑞木薫)、在校生は昨年度卒業生が歌った『花束』(作詩・作曲/桜田直子)そして、全校生で『旅立ちの日に』(作詩/小嶋登、作曲/坂本浩美、編曲/松井孝夫)を歌うことになりました。歌う順番も、最初に在校生、次に卒業生、そして全校生という順になります。昨年度の式を

振り返れば、鳥肌が立つほどのスケールの大きな素晴らしい式歌でした。多くの来賓の方々からも絶賛されました。今年度の榎祭でのレベルの高かった合唱コンクールを考えれば、今年度の式歌も、今の富中を象徴するような、昨年度以上の素晴らしい大合唱になると確信します。卒業式に美しい彩りと言葉にはできないくらいの感動を与えてくれるのは、式歌です。歌詞に込められた思いや願いをしっかりと表現してほしいと思います。期待しています!

### 花笑(はなえみ)

もう一度 微笑ってみせて  
胸の奥のフィルムに 焼きつけておくから  
さよならに 見送られて  
あの夏の日を 卒業してゆこう

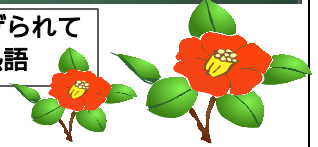
永遠に心は 離れはしないと誓った  
あの桜の下で きみはいまひとりで  
なにをみつめるのだろうか

ああ 咲きそめし 淡い花びらは  
人のこころにほほえみを宿し  
かすかな風に散っていく  
はるかかなあこがれに 旅立つときは  
出逢いと別れのせつなさに とまどうことばかり

ああ 舞い上がる 花びらのむこうに  
夢のつづきが きつと待っている  
見上げる かすみの空に  
まっすぐ咲けばいい 生きればいい  
何度でも立ち上がるきみに 清らかにさくらが舞う



音楽室に掲げられて  
いる四文字熟語



## かがやくこと、いくつか…

### 第14回福島県Sリーグテニス大会県中地区予選大会 優勝!

1月25日(土)、26日(日)に西部第二体育館で開催された第14回福島県Sリーグテニス大会県中地区予選大会において、男子ソフトテニス部は、予選リーグ(大槻中、郡山一中)、さらには決勝リーグ(船引南中、郡山三中)を勝ち抜き、見事第1位に輝きました。3月15日(日)に福島市で行われる県大会出場を決めました。県大会での健闘を祈ります。そして、来年度の中体連総合大会にしっかりと繋がるような戦いにしてほしいと思います。

【出場選手】菅野那樹、菅野悠翔、丸野和士、佐藤千颯、後藤純平、馬場翔悟  
高桐順平、梨本義斗

今大会で、僕達男子ソフトテニス部は優勝を果たすことができました。今回優勝できたのは、体育館を貸してくださった方々、応援して下さった方々のおかげです。次のSリーグ決勝大会(県大会)では、今回の大会で出た反省や課題をもとに、チーム一丸となって練習し、県中地区の代表として恥ずかしくない態度で試合に臨みたいです。決勝大会でも優勝めざし、がんばりたいです。  
(男子ソフトテニス部 部長 菅野那樹)



男子の部で優勝した富田中

### 女子 船引 男子 富田制す 県中地区予選

県中学生学校対抗ソフトテニスリーグ  
ソフトテニスの第14回県中学校Sリーグ大会県中地区予選大会は25、26の両日、郡山市の郡山西部第二体育館で開催され、女子は船引中、男子は富田中が優勝した。県中ソフトテニス連盟の主催、県ソフトテニス連盟、福島民友新聞社の共催、県のあつま総合体育館で開催される決勝大会に出場する。

各9チームが出場。試合は団体戦で行われた。選手は決勝大会出場を狙い、熱戦を繰り広げた。優勝した両チームは3月15日に福島市のあつま総合体育館で開催される決勝大会に出場する。

山三(女子)の船引の郡山③小原田

【1/30 福島民友朝刊より】

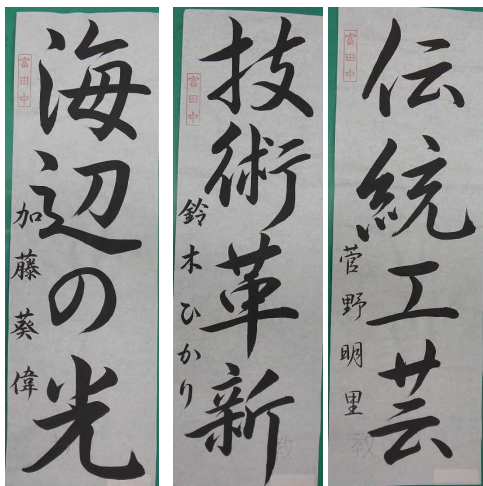


### 第64回福島県書きぞめ展 1年加藤君「書きぞめ大賞」、3年鈴木さん「準大賞」受賞!

第64回福島県書きぞめ展において、1年加藤葵偉君が見事最高賞の「書きぞめ大賞」を受賞しました。また、3年鈴木ひかりさんが「書きぞめ準大賞」、2年菅野明里さんが「書きぞめ奨励賞」となりました。3名は市の書きぞめ展特別賞に続く受賞となりました。3名の作品には、線の美しさを感じられ、観る者を唸らせる力があります。さらに、名前もしっかり書かれている点も素晴らしいです。加藤君、鈴木さんの「書」に対する思いです。

今回、「書きぞめ大賞」、「教育長賞」という二つの賞に入賞することができて良かったです。去年とは違い、書体が行書となったので、今までより努力はしたかと思えます。思ったより行書は難しく、馴れるまでに苦労しました。僕は、画の繋がりが非常に不得意で、上手く手本のように書けませんでした。冬休み中に頑張ることはできたと思いますが、完全な完成には至らなかったと思います。今回の書きぞめ展で、行書の難度が僕の想像よりかなり上で、完成に遠いことを知ったので、次回書きぞめ展では、行書の特徴を捉え、自分の悔いのない作品を作っていきたいです。(1年加藤葵偉)

#### 【県書きぞめ展 入選作品】



中学校生活、三年間の集大成として三年生でも『書きぞめ大賞』を獲るという目標がありました。達成することができず、とても悔しいです。(鈴木さんは1・2生と2年連続で大賞を受賞していました。)私は、6歳から習字を習い始めました。10年間続けていて、何度もやめたいと思ったことがありました。しかし、ライバルや教えてくださる先生のおかげで続けることができました。ありがとうございました。…中学校では、学校生活と習字の両立が難しかったです。小学校では、長時間やることも多々ありました。しかし、中学校ではそうもいかず、特に今年は時間が限られていましたが、その中でベストを尽くし、良い作品ができたと思います。習字で培った忍耐力と集中力を高校では勉強面や部活面で生かしたいです。  
(3年鈴木ひかり)

2名の言葉から、「向上心」が強く感じられます。菅野さんも含め、自分自身が納得のいく作品づくりに励んでほしいと思います。